

た。又睡眠中の観察では仰臥・横臥の使いわけがなされていた。

C— 7 枕の人間工学的研究（第2報） ——枕の形について——

西南女学院短大 ○峯崎フミコ
村上 清司
新村 律子
大場 泰子
奈良女大家政 花岡 利昌

1. 昨年の本学会に於て、枕につき、人間工学的な立場から20歳前後の健康な女子の適当な枕の高さについて発表した。この時の高さの求め方は枕を当てる位置を一定にし、そこに点枕（ベニヤ小片）を積み重ねる方法と、蝶番で傾斜角を変えていく方法とで適当な高さを求めたもので、それが客観的にも妥当な高さであるかどうかを見るために筋電図及びX線で検討した。今回はこの高さを土台として試作枕を作り、これについて官能・客観両方面から検討したので報告する。

2. 女子短大生100名を被験者とし、試作枕を用いて、部分的に官能テストを行ない、別に8名の被験者については特に、長期間試作枕を使用させて寝心地をテストした。客観テストとして(A)プラスチック板にストレンゲージをはり、それを枕の中にはさんで記録計に結びつけ、寝返りの回数・横臥仰臥の回数及び時間的経過を記録し、試作枕と他の枕との比較を行なった。(B)数名につき、睡眠中の状態を観察した。

3. (1)官能検査で仰臥位・横臥位の高さがこれで良いと思うもの88%、奥行・幅がこれで良いと思う者100%、中央をくった方が良いと思う者90%であった。長期間試作枕を使用した寝心地も総合的な結果は全員良好であった。(2)記録計による寝返りの回数も他の枕に比べて少なく、中央をくった方が仰臥の時間が横臥に比べて長かつ